

乙 頁

おと さか

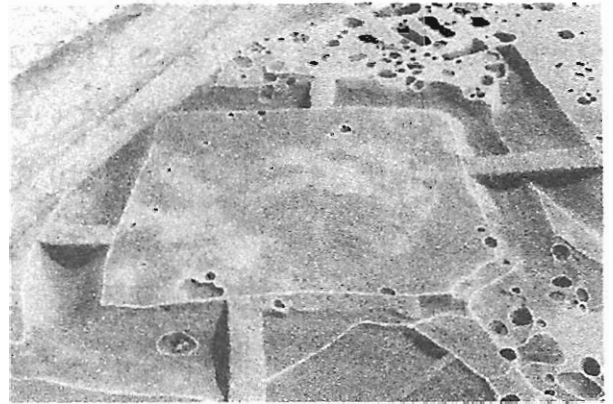
はじめに

「秋の日は釣瓶落とし」といわれます。発掘現場の夕方は、遺物の取り上げ作業や測量などがあわただしく展開します。11月（籍月・神楽月）、市内の発掘調査の近況をお届けします。

☆ 発掘調査だより ☆

1 欲賀南遺跡の調査（調査中）

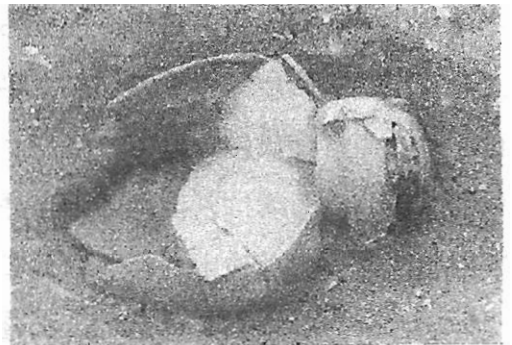
区画整理工事、宅地造成工事に伴う欲賀南遺跡の発掘調査では、古墳時代初頭から前期にかけての方墳が見つかっています。以前、発見され話題になった円墳の西側に隣接して築かれており、古墳群を形成していることがわかってきました。方墳は一辺10



m程の大きさで、周りに幅2.5m、深さ1m程の周溝が掘られています。墳丘は削平され残っていませんでしたが、墳丘北コーナー付近の周溝底から土器棺が発見されました。土器棺は胴周りが90cm程ある大型の壺で、瀬戸内地方の土器に形がよく似ています。壺の口の部分には甕（在地の土器）の底部が蓋としてかぶせてありました。おそらく、方墳に葬られた人の家族など近親者が従者が葬られたのだと考えられます。当時の精神文化を考えるうえで興味深い資料です。またその10m

△方墳：一辺約10mで主体部は削平されている。

程西の地点では、大型の管玉も発見されています。長さ7.7cm、直径2.2cmもあり、普通見られる管玉の何倍もの大きさです。玉の材質は、淡い緑色をした軟らかく加工しやすい石（緑色凝灰岩と考えられる）で、直径約5mmの穴が両側からあけられています。その性格は他の玉と組み合



▲出土した土器棺

わせて使う装身具以外に、王の権威の象徴である玉杖の軸に用いられたとする考えもあり、宝器的性格が強かったことがうかがえます。大形の管玉は北陸や関東地方の生産遺跡をはじめ、関東から九州にかけての古墳や祭祀遺跡などから見つかっています。しかし、その出土例は少なく生産から供給にかけてその背後に大和政権が関係しているとする考えもあります。欲賀南遺跡では、遺構検出作業中に1個見つかっただけで、遺構との関係はよくわかりません。あるいは、奈良時代から鎌倉時代に



▲出土した大型管玉

かけての開発によって古墳が壊された時に、^{ふくそうひん}副葬品の一部が埋没したのかもしれませんが。ただ、この宝器を持つ人物（地域の豪族か？）が欲賀南遺跡にいたという点は重要であり、今後この地域の古墳時代を考えるうえで貴重な資料を得たといえるでしょう。（小島）

2 寺中遺跡（第16次）の調査（終了）

地域総合センターの西側で調査を行いました。調査地は削平^{かくらん}や攪乱を受けており、残存状況がよくなかったのですが、溝、ピットが確認できました。SD1は幅2m～3.2m、深さ48～56cmを測る溝で東西方向に伸びています。SD1に切られる形でSD2が検出されました。SD2は0.6～1.4m、深さ5～16cmと浅い溝で、西方で2条の溝に分かれています。SD3は幅約60cm、深さ約10cmの溝で調査区北端でかすかに底の痕跡が確認でき、南西から東北へ直線的に伸びていたことが推測されます。SD4は幅約50cm、深さ約10cmの屈曲する溝です。いずれの溝からも出土した土器は細片で、時期の判別は難しいのですが、おそらく弥生時代中期頃かと考えられます。

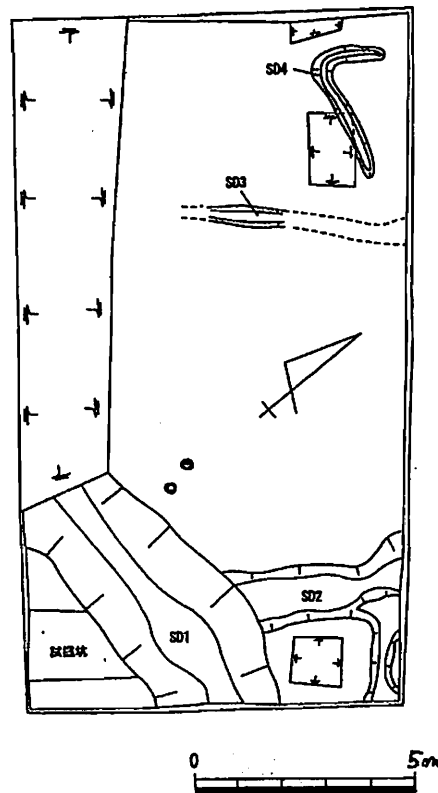
（大岡）

3 欲賀南遺跡（第8次）の調査（終了）

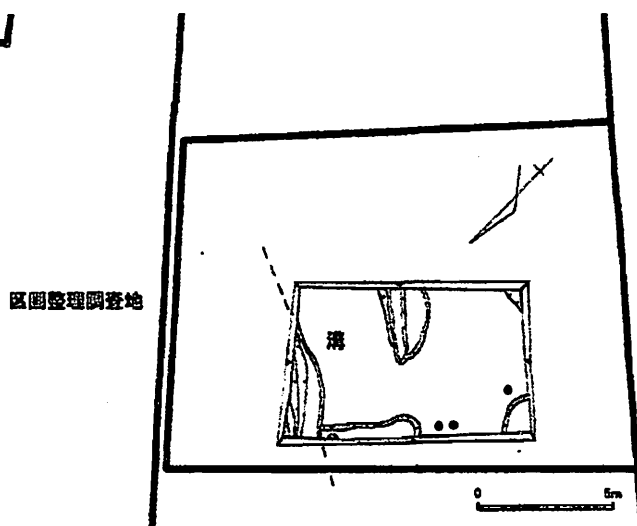
現在工事中の欲賀南遺跡土地区画整理地内において、個人住宅建築に先立ち発掘調査を実施しました。調査の結果、平安時代後期から鎌倉時代にかけての溝やピットを検出しました。溝は、土地区画整理の調査で同じ向きの溝が検出されていることからその続きと思われます。土地区画整理の調査では平安時代後期から鎌倉時代にかけての井戸や溝が検出されています（乙貞138号欲賀南遺跡の調査参照）。（森山）

4 焰魔堂遺跡（第22次）の調査（終了）

今宿二丁目字柿ノ木において分譲住宅建築工事にともない発掘調査を実施しました。調査の結果、地下約60cmで方形周溝墓1基と柱穴を検出しました。方形周溝墓は、くの字に曲がった周溝のコーナー部分が検出されました。溝幅は1～1.3mで、断面がV字状に、深さ約

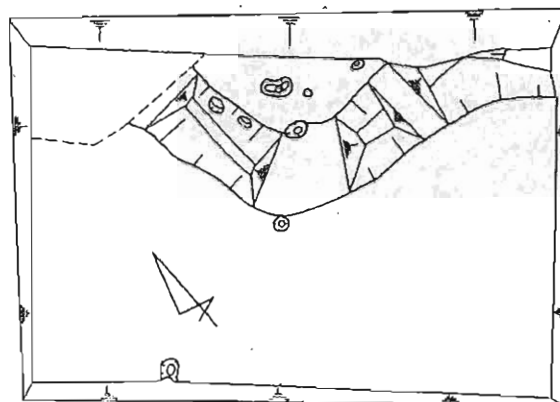


▲寺中遺跡第16次調査平面図



▲ 欲賀南遺跡8次調査平面図

1 m掘られていました。出土遺物は少量ですが、土師器が出土しており、古墳時代前期のものと考えられます。今回の調査地の隣地部分でも方形周溝墓群が検出されており、見つかった方形周溝墓もこの墓群の一つと思われます。(畑本)



5 下之郷遺跡(62次)の調査(調査中)

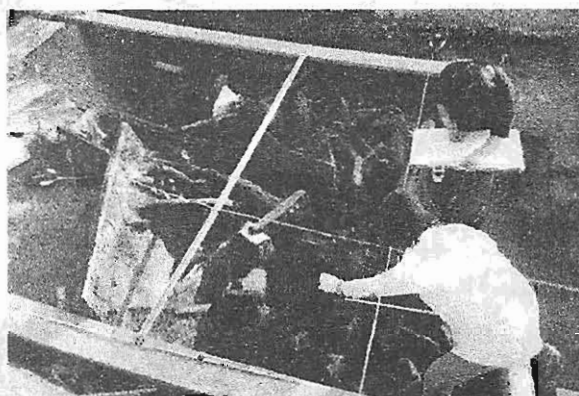


▲ 焔魔堂遺跡調査平面図

下之郷遺跡では、環濠集落の東端部分で史跡整備に先立つ発掘調査を進めています。現在、1番内側の環濠(SD-1)と2番目の環濠(SD-2)の掘削調査を実施しています。調査のねらいは、いくつかあるのですが、今回は、環濠が何時掘られて、どのようにして埋もれたのかを明らかにしていく調査を実施しています。

環濠には、それが掘られた時から埋もれてしまうまでの歴史が秘められています。その起点と終点に分かると埋もれてしまう間の時間幅がわかります。調査では、それぞれの環濠の底から出てくる土器の形態や文様、器種の割合を詳しく調べて、また、C14年代測定や年輪年代測定を実施し科学的手法による実年代究明を進めています。

SD-1(内濠)については、外側に掘られた環濠よりも規模が大きく、遺物の保存状況が良く出土量が非常に多いので年代研究にとっては好都合です。過去の調査では、SD-1(内濠)下層土器8点のC14年代測定では、BC380年~BC100年という結果が得られています。そして下層から出土した木製盾^{たて}の年輪年代測定で最外年輪(辺材欠失)はBC223年という結果が得られています。現在進めている調査では、下層から上層にかけて出土する土器の型式を調べ、何年ぐらいの時間をかけてSD-1(内濠)が埋もれたのか、さらにSD-2との堆積状況の違いや出土土器の型式差があるのかどうかを調べています。



▲ 下之郷遺跡62次 環濠(SD-1)調査状況

遺構の切り合い関係(前後関係)からすると、SD-2(第2環濠)から派生する小溝が、SD-1に連結するように繋がる部分が検出されていて、その小溝から流れ込んだと考えられる泥土がSD-1の中層で確認されました。したがって、SD-1とSD-2は、同時に存在していた時期があることが判定できました。ただし、同時期に開削されたかどうかについては、今後、出土遺物も含めて究明していかねばなりません。(川畑)



▲ 下之郷遺跡62次 環濠(SD-2)完掘状態

市内の文化財行事等
お知らせ

☆ 市立埋蔵文化財センター秋季特別展 ☆

『木と人のかかわり～木器からみた古代の祭り～』

【開催中】

開催期間：平成19年11月3日（祝）から11月18日（日）まで（期間中無休）

開館時間：午前9時から午後4時まで（入館時間）

講演会：平成19年11月11日（日）午後2時から4時まで

演題：「木と人のかかわり～木器からみた古代の祭り～」

講師：阿刀弘史さん（滋賀県文化財保護協会 主任技師）

体験学習会：古代の琴をつくろう（先着15人/要予約）参加費無料

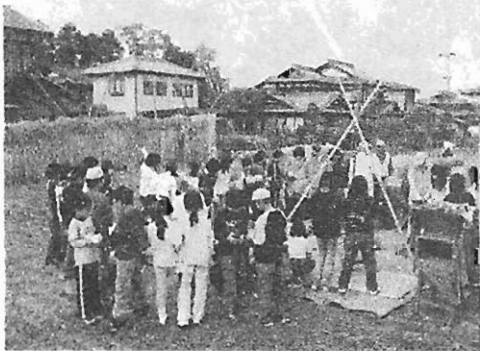
日時：平成19年11月17日（土） 午前10時から

☆ 文化財の窓 ☆

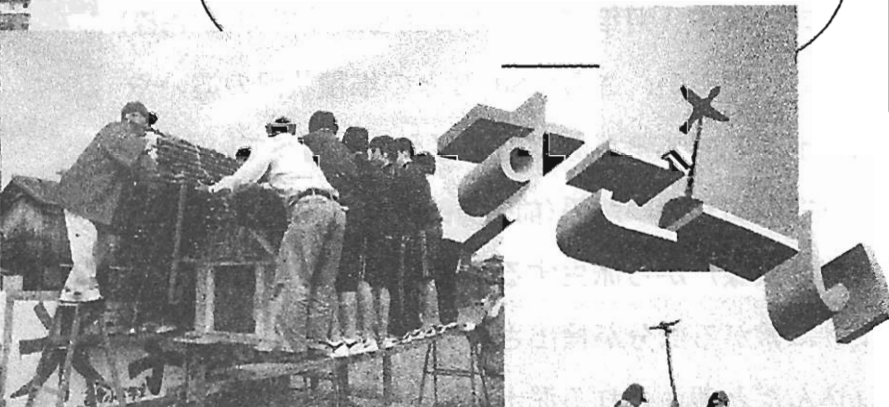
「ご近所の底から」と地域の遺跡



▲ 授業風景



▲ 赤米の脱穀作業



▲ 屋根葺き作業



▲ 中学生との建築体験授業

いいちゃんズ
と記念撮影



▲ 稲倉建築

「下之郷いいちゃんズ」

最近、下之郷いいちゃんズは、ちょっと名の売れた存在です。そもそも、平成11年に下之郷遺跡が発掘されている時に、地元農家の有志8名が、小学校5年生の体験授業を実施することで始まりました。

「いいちゃんズ」の愛称も、児童らが名付けたもので、活動は今年で9年目を迎えました。

主な活動は、遺跡内の田んぼで、昔の農業を児童たちに手取り足取りで指導をすることです。

春には、種籾おとし、代掻き、田植え、夏にはカカシ立て、秋には刈り取り、天日干し、脱穀、精米、冬には餅つき大会と一年間、季節に合わせた体験授業を遺跡で行います。

いいちゃんズは、遺跡のことを「わし等のご先祖さんが残したものだ」と、子供達に説明してくれます。

最近では、小学校の授業に出前参加したり、遺跡ボランティアの大会に出場したり、中学生と弥生時代の復原建築(体験)を行なったりと、大忙しです。